**わくわく聖書セミナー　第７回　「来るべきメシア」**

前回に続いて、預言書を見ていきましょう。まずイザヤ書52章13節から53章全体を読みましょう。

**終末論**

神は捕囚の民に対して預言者を通じて捕囚からの解放を告げました。

しかし、ただ捕囚が終わるということだけでなく、神が歴史を導き、新たな時代の幕を開かれることが様々に預言されています。歴史とは単なる偶然の積み重ねではなく、聖書は明確に歴史には神の目的があると語っています。それを聖書の「終末論」と言います。

　終末には、人々が内面から変えられ、永遠の王イエスの統治が実現します。

資料P1

**メシア預言**

　これらのことは、メシア（キリスト）を通して成し遂げられるというメシア預言が繰り返されています。キリスト教会はイエスこそメシアであると信じてきました。

資料P2-4

　特にイザヤ書53章は、十字架に架かられたイエスこそがメシアであることを証ししています。

資料P5

補足：再臨はいつなのか？

　具体的な日付は聖書にも書かれていませんし、誰にもわかりません。

　具体的な日付を予言して失敗した人々もいます。（エホバの証人など）

　しかし、その予兆はイエス様が教えておられます。

　私たちは、いつイエス様が来られてもよいように「目を覚ましている」ことが必要です。

次回は「詩歌と知恵文学」です。ヨブ記、詩篇、箴言、伝道者の書、雅歌まで。

長い個所ですが、それぞれの書をちょっと覗いておいてください。